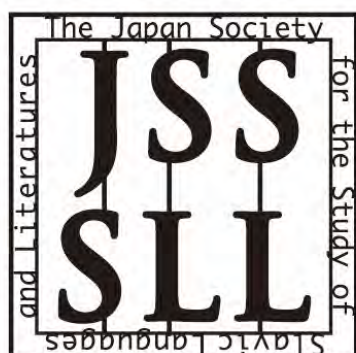


2020 年度 日本スラヴ学研究会研究発表会

2021 年 3 月 27 日 土

14:00 / 17:40

- 14:00/14:05 開会の辞 三谷恵子 (本会企画編集委員長)
- 14:05/14:45 阿部賢一 (東京大学) 司会 大平陽一
ヨゼフ・ユングマンの翻訳『アタラ』の社会的機能について
- 14:45/15:25 ブルナ・ルカーシュ (実践女子大学) 司会 越野剛
エリアーショヴァーが見た昭和初期の日本
— 旅行日記その他の資料を中心に
- 15:25/16:05 豊島美波 (東京大学) 司会 小椋彩
ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲『ガーデンパーティー』における不条理
— ナ・ザーブラドリ劇場との関連から
(休憩)
- 16:15/16:55 須藤輝彦 (東京大学) 司会 木村英明
ミラン・クンデラにおける成熟の問題
— 『生は彼方に』をめぐって
- 16:55/17:35 石川達夫 (専修大学) 司会 三谷恵子
PDIC (Personal Dictionary) を用いたスラヴ語デジタル辞典のシステム
— キリル文字使用ロシア語への応用
- 17:35/17:40 閉会の辞 長與進 (本会会長)



事前登録

本研究発表会は ZOOM によるオンライン開催となります。
参加希望の方は、**3月26日**までに slav@jssll.org 宛てにご連絡ください。当日、登録されたアドレスに ZOOM のリンクを送信します。なお、**会員については本会MLで ZOOM のリンクを送信しますので、事前登録は不要です。**

発表要旨

阿部賢一

ヨゼフ・ユングマンの翻訳『アタラ』の社会的機能について

ヨゼフ・ユングマンは、辞書や文学史の執筆など、多面的な活躍を通して、民族復興期を代表する文化人として知られる。この報告では、ユングマンによるシャトーブリアンの『アタラ』の翻訳の分析をもとに、ユングマンの翻訳観の一端を明らかにすると同時に 19 世紀初頭におけるチェコの翻訳文学の社会的機能についても考察を行なう。

ブルナ・ルカーシュ

B・M・エリアーショヴァーが見た昭和初期の日本

—— 旅行日記その他の資料を中心に

1929 年の春、チェコの女性旅行家 B・M・エリアーショヴァーは、チェコスロヴァキアの外務省より補助金を得て、4 度目の来日を果たした。当時 54 歳であり、しばしば気管支炎に悩まされ、体力も衰えていたエリアーショヴァーにとってこれが最後の来日であり、また最後の海外旅行となった。本発表では、エリアーショヴァーの旅行日記、日本やチェコスロヴァキアの新聞に発表された記事などを調査し、日本でのエリアーショヴァーの足跡をたどる。

豊島美波

ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲『ガーデンパーティー』における不条理

—— ナ・ザーブラドリー劇場との関連から

ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲『ガーデンパーティー』(1963) は、チェコスロヴァキアで初めての不条理演劇作品とされる。本発表では、この作品を「不条理演劇」たらしめる要素を明らかにするため、戯曲のテキストや、ハヴェルが所属するナ・ザーブラドリー劇場での作品制作背景、公演実践等を複合的に分析する。また、ハヴェルに影響を与えた同劇場の演出家ヤン・グロスマンと、ハヴェル自身の不条理演劇のコンセプトを比較・参照する。

須藤輝彦

ミラン・クンデラにおける成熟の問題 —— 『生は彼方に』をめぐって

未成熟という主題は、初期のクンデラ作品にとって根幹的なものだ。『可笑しい愛』や『冗談』が描く性愛関係の失敗は多くの場合、未成熟、つまり「抒情の時代の喜劇」によって引き起こされる。しかしこのテーマは無論、性愛にのみ関わるものではない。それは小説に対する抒情詩一般への、また共産主義に熱狂した若き知識人たちへの批判と繋がり、さらには母国チェコの小国性ないし後進性といった問題にまで通底しているように思われる。本発表は、クンデラのこれまでの作品のなかでも最も自伝的だろう小説『生は彼方に』(1969) を主な題材に、啓蒙と自己批判という観点からクンデラの成熟観を考える。

石川達夫

PDIC (Personal Dictionary) を用いたスラヴ語デジタル辞典のシステム

—— キリル文字使用ロシア語への応用

発表者はチェコ語デジタル辞典のシステムを開発したが、このシステムは他のスラヴ諸語にも応用できるだろうと予想した。そこでキリル文字を使用するロシア語に応用してみた結果、デジタル・テキストを読みながらの自動辞書引き、外部の露和辞典や露露辞典との連動検索その他ができるようになり、既に公開した (<https://czechdicjp.jimdofree.com/>)。今回はその「実験結果」を報告すると共に、英語と AI 全盛時代における「マイナー」言語のデジタル辞典の意義についても考える。